

## チン民族の日 (Chin National Day) にあたって

～全世界のチン民族組織は訴える～

2007年2月20日

2007年2月20日、第59回目のチン民族の日がやってくる。ビルマ連邦のチンランド (Chinland、必ずしも現在のチン州に限定されない＝訳者) で、周辺の国々で、あるいは世界の各地でチンの人びとはこの民族の日を祝うであろう。

しかしながら悲しい現実がある。ビルマ軍事政権はあらゆる手段をつくしてせつかくの民族の日をチン民族の人びとの目から覆い隠そうとする。私たち世界各地に住むチン民族はこうしたビルマ軍事政権の民族蔑視と差別的な行為を強く糾弾する。

チン民族の住む地域ではキリスト教のシンボルである十字架が倒され、そこに仏教寺院が作られる。チンの人たちはこれこそ独裁政治とチン民族に対する「植民統治」の証しであると受け取っている。こうした行為についても私たち全世界のチン人は強く非難する。

チン民族の日はチン入にとって、チンランドにとって歴史的に重要な意義を持つ日である。この日は、チン民族が世界の諸民族同様、自分たちの版図を持ち、独自の歴史、文化、言語と文学を持つ民族であるという誰もが否定できない事実を明らかに示す日でもある。チン民族は世界から認められた、民族自決権を有する民族である。そのことは国連憲章に照らしても明らかである。

ビルマ連邦は歴史的にそれぞれ独自の領域と文化を持った多くの民族によって構成される。ビルマ民族には自らの王朝があった。同様にモン民族もアラカン民族もかつて独立した王国を建設した。シャン、チン、カチン、カレン、カレンニなどの諸民族もまた、それぞれの藩王国あるいは首長国としてのまとまりを持っていた。

イギリスは三度にわたる戦争を経てビルマを征服し、植民地とした。1885年にはマンダレーを都としたビルマ最後の王朝がイギリスに屈した。チンランドもまた激しい戦闘のすえにビルマ本土とは別にイギリスの植民地となった。チンランドが大英帝国の植民地となったのは1889年のことである。

各民族はそれぞれにイギリスからの独立を求めるたたかいを展開した。ビルマ民族の指導者であるアウンサン将軍が諸民族に対し、独立にあたってはひとつの連邦国家を形成しようと呼びかけた結果、1947年2月12日（この日は現在も連邦記念日として祝われる＝訳者）にはシャン、カチン、チンなど各民族の指導者たちが同意し、ピンロン（シャン州の地名。シャン語ではパンロン＝訳者）条約に署名した。1948年1月4日、新しい独立国家ビルマ連邦が誕生、チン民族の住む地域も連邦の一角を占めた。

独立に伴う新国家建設にあたってチンランド各地から集まったおよそ5000人の代表は、当時のチンランドの首都ファラム (Falam) において会議を開催した。代表たちは1948年2月18日から20日にかけて将来の政治体制についての討議を行なった。会議では圧倒的多数の賛成で、チンランドにおける世襲による首長支配を廃止し、民主主義制度を導入するとの決議がなされた。この会議は独立後に開催された最大規模の会合であり、チン民族の民主主義への願望を明らかにしたものであった。

この会議の決議はチン民族の歴史の一ページを飾る里程碑である。その意義を再確認し、決意をあらたにする日こそ2月20日、チン民族の日である。ビルマ連邦としての独立は達成されたが、チン民族は徐々に諸民族平等の権利と民族自決権を喪失して行った。ピンロン協定の文言と精神が具体化されることはなかった。

チン民族ばかりではない。40年におよぶ過酷な軍人独裁支配の下ですべてのビルマ連邦国民は人権と人間としての尊厳を根こそぎ失った。原住諸民族の文化や言語・文学は恣意的、計画的に破壊された。今や諸民族は民族消滅の危機に瀕している。

彼らが長年にわたって居住してきた領域は軍によって奪われ、分断されている。強制移住、強制労働は日常的に実施され、多くの人々が父祖の地と永久の別れを告げざるを得ない事態に追い込まれている。自由と民主主義を愛するチンの人びとがやむを得ず故郷を後にし、世界の各国へと逃れ出るエクソダス (Exodus) はいまや新しい潮流となった。

ビルマ軍事政権は外国へ渡った人たちとその子孫らをビルマ連邦国民とは見なさない。国民としての権利を認めない措置をとっている。諸外国に居住するチンの人びとはビルマ連邦原住民族としての権利を失ってしまった。私たちは激しく糾弾する。チンの人々を父祖の地から除去しようと公然と企てている軍事政権を。

私たちは叫びたい。たとえ移住した国において帰化を認められ、市民権を得たとしても、チン民族ディアスポラ（故郷喪失者。Diaspora）とその子孫たちはチン民族としての権利を持っている。チン人たちは世界各地で生きている。住みついた先々で民族の精神、文化・言語、それに決して奪い去ることのできない国民としての自覚を守り、向上させようとコミュニティやサークルを形成して生きている。

社会活動にとどまらない。私たちチン民族は民族自決権、民主主義の確立と人権の尊重、そして真の連邦制国家（Federal Union of BURMA）の樹立をめざすたたかいに参加している。私たちの活動はビルマにとっての「第二の独立闘争」のなかで大きな役割を担っている。たたかいがいかに長引こうとも、私たちチン民族はこの歴史的な使命を世代から世代へと受け継ぎながら果たしてゆく覚悟である。

私たち世界各地に生きるチン人は 2007 年 2 月 20 日『チン民族の日』にあたって高らかに宣言する。

- (1) ビルマ連邦を構成するチン民族は人間として、民族として、国連憲章の保障する民族自決権を有する。
- (2) ビルマ連邦を構成するチン民族は、年齢、生地、他国における市民権の有無にかかわらず、チン民族としての権利を有する。ビルマ連邦国民としての権利および父祖の地チンランドにかかわる権利を保有している。
- (3) 歴史的なピンロン条約の締結とビルマ連邦建国にかかわったチンランドのチン民族としてほかのすべての民族に対して真の連邦制国家樹立をめざしてたたかおうと呼びかける。
- (4) 私たちチン民族は父祖の地において 50 年以上の長きにわたって民主主義の樹立につとめてきた。私たちは現在の軍事独裁政権を強く非難し、あらゆる手段によって民主主義を実現するたたかいを続けることを宣言する。
- (5) ビルマ連邦の崩壊を防ぎ、民主主義と人権を復活させるために私たちはビルマのすべての人びとに呼びかける。国民和解の精神にもとづき、政治的解決をめざし、軍事政権、1990 年総選挙において勝利した政党および、（少数）諸民族代表者による三者対話を実現しようではないか。

Chin Community Denmark  
Chin Community (Germany)  
Chin Community of Indiana, USA  
Chin Community Norway  
Chin Forum  
Chin Freedom Coalition  
Chin Human Rights Organization  
Chin National Community – Japan 在日チン族協会  
Chin National League for Democracy (Exile)  
Chin National Community Organization– Korea  
Chin Student Union of North America  
Chin Women Organization – Japan 在日チン女性機構  
Mare People Party (Exile)  
Melbourne Chin Community  
Women League of Chinland  
Zomi Community Committee (New Delhi, India)  
Zomi Human Rights Foundation (Bruma)  
Zomi Innkuan USA  
Zomi National Congress (LA)